

■第2回 都市と地域コミュニティの持続可能性に関する懇談会 意見交換要旨

【啓蒙活動】

- ▶日常生活においては、環境やごみ問題について身近に感じる事がなかった。**様々な課題**があることを我々市民が知らないということが**大きな問題**であると感じた。
- ▶**次世代**に環境問題を**先送り**することは**避けるべき**。その共通意識を持ってもらうために、**若い世代への情報発信**が必要ではないか。例えば、パパママ学級のような場において、環境面における課題や次世代への影響といった話をしてもらえると良いのではないか。
- ▶様々なごみ問題について、初めて知ることが多かった。ごみ問題を**子育て世代にも自分事**として捉えてもらうことが大事。そのための**出前講座**をお願いしたい。
- ▶給食の食べ残しなど、**食品ロス**の問題が**ごみ処理に与える影響**など、**小中学生**にも問題意識を持ってもらうための**教育**が必要ではないか。全世代で取り組んでいくべき問題だと考える。
- ▶様々な対象者に**啓蒙活動**が必要になってくるのではないか。**出前講座**などの市の取組を**一層推進**していただきたい。
- ▶問題解決のためには、**個々の行動変容**が必要である。習慣を変えることは大変なことなので、**心に刺さるような内容**でアプローチしていくことが大切である。
- ▶**行動変容**には、頭で理解するだけでなく、**処理場のごみのおい**を感じたり、**収集・分別作業の大変さ**を見たりする体験が重要である。**出前講座**などに**体験を付け加える**など、啓蒙の仕方を考えるべきである。

【ごみの減量／資源化】

- ▶ごみの減量について**市民の意識向上**を目指し、市から**指導**をしてもらいたい。
- ▶**企業団体**としてもごみ減量に向けて、会合やパーティーでの**食事時間をゆっくり設ける**など、**食品ロス**の問題に地道に取り組んでいかなければならない。
- ▶**資源ごみ**を回収することで個人に**ポイントを付与**するなど、分かりやすいメリットがあることが、**住民の意識向上**につながるのではないか。
- ▶ごみを減量するには、「**どのごみを減らすのか**」、「**なぜ減らすのか**」ということを明確にするべきである。**目的意識と手段をセット**にして取り組んでいくことが重要である。
- ▶**紙おむつ**のリサイクルは技術的には可能とのことなので、できると良い。
- ▶岐阜市は他都市と比較して**プラスチックごみの割合が多い**と感じた。プラスチックごみの減量は**比較的取り組みやすい**のではないか。
- ▶日常生活において、**食品などからごみに変わるタイミング**を意識することが大切である。
- ▶**ごみ処理場**を作る際には、**地域住民に寄り添って施設**を作っていくべき。

【ごみステーション】

- ▶ **若い世代**は仕事で外出するため、**日中**にごみステーションの**管理ができない**。そのため、カラスが散らかしたまま放置されているという問題がある。
- ▶ 市内約27,000か所という他の中核市と比較して多く設置されているごみステーションは、**自治会が管理すること**で支えられている。

【ごみの処理経費／有料化】

- ▶ **ごみの処理経費が増加**していることを**課題**として考えていかなければならない。
- ▶ ごみ袋を**有料**としている**他市**では、**ごみ袋を大切に使用**していた。岐阜市はまだ有料化されていないが、ごみ処理に**多くの税金**が使われていることを踏まえると、市民の理解を得ながら、**有料化も考えて進めて**いただけると良いのではないか。
- ▶ 金沢市の事例では、ごみ袋を有料化するとごみの減量に効果があったとのことだったが、**ごみ袋が有料化されている自治体**に住んでいたときは、家庭内でも**ごみの量を少なくしよう**という意識が高かったという印象がある。